

# 無影灯

谷 一夫

〔米不足〕

戦争が終わって2ヶ月がたった頃、私は4歳になった。当時、父の知り合いの田舎のお寺に疎開していたが、断片的な記憶はあるものの、食べ物についてはほとんど覚えていない。

昭和2.2年現在のところに移り、翌年、小学校に入学した。甘いものといえば砂糖きびくらい、子供たちのおやつは乾パンがあれば上等であった。ある日叔父が、「進駐軍にもらったから」と言って茶色い菓子くれた。一口食べて、世の中にこんなに旨いものがあるのかと思った。いまだにチョコレートには、特別の思い入れがある。

我が家では時々、月に何回というペースで、食卓に芋粥が出た。その頃の私は、サイコロに切った芋の入ったお粥は甘い味がして、特別のご馳走だと思っていた。「今夜はお粥だよ」と母が言うと、うれしくて、鍋の蓋が開くのが待ち遠しかったものだ。今考えてみると、育ち盛りの子供たちに食べさせる米が十分なくて、芋と水で文字通り水増しせざるを得なかった母は、さぞつらかったことであろう。そうとは知らず、喜んで食べる子供たちを見て、母はどんな気持ちでいたのであろうか。

昨年の凶作で日本中から米が姿を消し、スーパーの店頭には長蛇の列ができた。国産米でなければいけないのだそう。うろたえ、自分本意の行動に走ることが、結局自分たちの首を絞めることは、オイルショックの時のトイレトペーパー騒動で経験済みなのに。タイ米で芋粥を炊いたら、きっと旨いと思う。

(谷医院院長)

## ケアの現場から

私共は、前からこの会のことを理解いただく為には、ケア活動をお伝えするのが一番だと思ってきましたが、プライベートにかかわる事でもありその機会がなかなかありませんでした。この度、どうしてもお伝えしたい事例があり、取り上げることになりました。ケアをさせていたOさんは、既に他界されております。会のためにここに掲載させていただくことは、ご理解いただけたと思っております。

### 入居者のOさん

Oさんは、八十二才の女性で一人暮らし。親しい友人を亡くし、その悲しみのショックから、急に歩くこともトイレに立つことも出来なくなりました。もともと心臓の持病があったもののそれまではお元気だったという。週に三回食の給食サービスを受け、週二回午後、市のヘルパーさんが訪問し、主治医が週一回往診されていた。近所の人からの通報で、遠い親類の方が駆け付けられた。状況をみられた親類の方は、民生委員、市役所、社協へと相談されたが、ホームヘルパーさんの訪問回数や時間を増やしていただくことは出来ないとのことだった。やむなく、ヘルパーさんが紹介していかれたのは、家政婦紹介所とまごころサービス尾張センターだったようです。家政婦紹介所へ電話をされたが、とても財政的に大変ということでもセンターへ依頼の電話があった。

### 主治医の往診に立ち会った

私共は親類の方の都合に合わせて訪問し、状況をお聞きしてから、主治医がどんな判断をされているのかお尋ねしました。要領が得ず、電話にて主治医の往診をお願いし、そこに立ち会わせてもらうことにした。

Oさんは、想像よりはるかに衰弱が激しいと思ったが、主治医が病院嫌いの本人をよく知っていて、気丈でもあり家で少し様子をみたいとのことだった。私達のお世話で大丈夫かどうかを尋ねたところ、可能だということ、いろいろ指示を仰ぎ、お世話させていただくことになった。

### ヘルパーの時間延長依頼

しかし、毎日、朝九時から夜六時三十分までワーカーさんを手配するのは土曜、日曜、祭日も重なっていた時でもあり、ちょっと困難な状況であったので、せめて市のヘルパーさんの担当日には昼の二〜三時間だけではなく、一日中お願い出来ないものかとお尋ねしてみた。やはり、社協の都合でどうしても出来ないという返事だったが、こんな大変な状況の方を、ほうっておくわけにはいかない。再度お願いをする。その後、上司と相談され、訪問回数を増やすことは出来ないが、訪問日は、朝から一日やってくださる旨連絡をいただいた。

### 実際のケアに入った

実際ケアに入ったが、Oさんの気力がなく、食欲がないのが気掛かりだった。



給食のお弁当を見ながら、体が衰弱して自分で食べられない人にも給食サービスは、いつもと変わらない中身ののだろうか、と疑問に思う。夕食の支度で、冷蔵庫の卵を手にとって驚いた。一番新しいものでも一カ月以上たっていた。

主治医の先生が、残っていた薬を調べてみたら、数が合わなかった。薬も誤飲があったようで、先生に、朝はこれだけ、夜はこれだけ、と分かるように、朝、昼、夜に飲む薬を一回分ずつ袋に入れてもらうことをお願いする。主治医の往診が食事中にあり、先生に今日の状況をお話しする。昨日と比べての変化に先生は驚かれ、頭も少しおかしかったし、顔の表情が良いとおっしゃった。

オムツを変えて帰ろうとすると、「一人で寝るんだね」とおっしゃる。「大丈夫ですからね。明日はヘルパーさんが朝からいらしゃいますから。お休みなさい」というと「お世話をかけたね」と一言おっしゃった。

次の日、訪問したヘルパーさんがお電話で、「明日と、日曜、祭日もきて下さるのですね。何も食べられず、水も飲まれないので心配で」と訴えられた。ヘルパーさん同士の連絡不足で今までのいきさつが伝わっていませんでした。子。「必ず、参りますから」とお答えする。

### 容体が急変

しかし、3日目の朝訪問した時、「きのうはちっとも寝られなかった。えらくてね」と言われ、オムツを見ると血便が出ていた。既に様子がおかしく、顔色も爪の色も悪く、すぐ主治医に連絡。民生委員、市職員の方が集まって来られた。結果、Oさんは午後入院されることになった。その二日後、Oさんは亡くなられたとのこと。

このケアを通して、いろいろなことを考えさせられ、問題点がはっきりしてきたように思われた。このケアに、かわらせていただいたことに感謝し、Oさんのご冥福を心からお祈り申し上げます。